

コードマークとは

コードマークは、縄文文化の特徴のひとつといわれている、人と自然との「共有の精神」を思い起こしながら、地域に昔から伝わる生き抜く勘や智恵、技を集め、最新の研究技術も試し、地域で生きていくために必要な環境保全、そのための社会的な仕組みづくりを共におこなっていくことを目的としています。

経営方式は、Jリーグをはじめとするプロスポーツクラブチーム経営です。すでに広く用いられている方式をヒントに、株式会社とファンクラブに相当する支援持株会によって社会的共通資本*を守る住民参加型の新たな手法を、弁護士や公認会計士の先生たちと考案しました。

※社会的共通資本：経済学者・宇沢弘文（1928-2014年）の提唱した概念。「ゆたかな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持することを可能にするような社会的装置」。

趣旨に共感した持株会会員の入会金がまとめられて株式会社に拠出、これを資本として具体的な事業を推進していきます。株式会社からは持株会へ種類株（議決権・配当なし）が発行され、会員は種類株の持分比率を持ち、会員自ら事業にも参加しながら支え続けていきます。

現在、コードマーク御代田（2020年設立）のほか、宮崎県都城市にコードマーク都城（2021年設立）があります。都城では市立図書館をベースに地域づくりをおこなっていくために現在準備中です。

CORDMARK MIYOTA

コードマーク御代田について

コードマーク御代田は、御代田町面替の平尾山麓に広がる薪や炭をつくってきた山林、耕してきた畑、湯川沿いの田んぼといった『里山』環境を維持していく活動拠点です。また、コードマーク活動に全面的に賛同いただいている澁澤寿一氏には株式会社コードマーク御代田の顧問をお願いしており、全国のコードマーク本部機能を兼ねています。

コードマーク御代田を支える持株会会員は現在49名。年2回、1回につき49名までの新規会員の私募を行います。入会金は1口約5万円（純資産額によって金額は変動。口数は任意）です。

会員は、活動に優先的に参加でき、建物上階のライブラリー、席の利用、カフェでの飲食を割引価格（現在2割引）で利用できます。

ライブラリーは、活動の趣旨に関する本をただ置いておくということではなく、本は課題やテーマの「見出し」として、語り合いが起こり、活動で得た智恵や経験知、情報を交換、蓄積していくための場を目指しています。

ミーティング席は、活動で必要となる会合、講座などを行います。

なぜコードマークを始めようと思ったのか

近代以降、消費社会が行き過ぎ、温室効果ガスによる地球規模の温暖化、気候変動の脅威も本格化してきました。それ以外にも不安要素を挙げればきりがありません。これまで長らく続いてきた社会、環境が、いま大きな分岐点にきています。

CORDMARK MIYOTA

ただ、問題はあまりに大きく、広すぎて、一体自分たちには何ができるか、何から手を付けたらいいのか、正直わかりません。個人の環境活動なんて、消費大国の状況を見れば「焼け石に水」に思えてきます。しかし、たとえ気候崩壊やそれに伴う災害が起こっても、日常を失わずに暮らしていく備えをしていかなければなりません。

4万年前に海を渡ってきた日本人の祖先。森を転々としながら氷期を生き延びました。1万5千年前、小さな<イエ>と協働の場<ムラ>をつくり、周囲にある<ハラ>を上手に生かし、自然の中で共存共生しながら1万2千年間を生きました。Cord-marked pottery、すなわち縄目紋様が付けられた土器が盛んにつくられたこの時代を「縄文時代」と呼ぶようになりました。

日本人が山の恵みや万物を大切に思い、共有の場を愛するといった多くの文化的遺伝子は、この縄文の記憶、思想から脈々と伝わっていると考える説を信じずにはいられません。

全国各地にコードマークができ、これら小さな共同体同士がゆるやかにつながり合い、協力し合うネットワークをつくっていくことによって、社会的共通資本の基盤となるものを整備していく。そして、地球環境も修復されていく具体的な活動、大きな運動になると信じています。

(ご興味がある方がいらっしゃいましたら、その旨をメール下さい)

株式会社コードマーク御代田 代表取締役 森田秀之
miyota@cordmark.jp

CORDMARK MIYOTA